

1 要旨 abstract

山鹿市の地域課題・少子高齢化を目的として、山鹿市の現状・課題・対策について調査し、山鹿市の魅力を発信できるように山鹿市役所へ訪問した。山鹿市役所の調べによると、年々人口が減少しているのに対して高齢者の割合は増加傾向にある。つまり、少子高齢化が進行していることがわかる。そこで、山鹿市の取り組みについてインタビュー調査、山鹿市ホームページ拝見を行い、山鹿市の抱える課題を解決すべく山鹿市の魅力を発信する企画を計画した。

2 現状と課題



(引用: マイ広報紙)

近年、山鹿市の少子高齢化が進行している。グラフ①を見ると、年々人口が減少している。平成17年では57,726人だった人口も令和2年では49,025人と約半以下になっている。また、生産年齢人口(15~65歳未満)が徐々に減少していき、それに伴い老年人口が徐々に増加している。

※「生産年齢人口」…労働意欲の有無に関わらず日本国内で労働に従事できる年齢の人口という意味。日本では主に15歳から65歳未満の年齢に該当する。

山鹿市の高齢化率の推移



(引用: GD Freak!)

現在の山鹿市は2005年に菊鹿町・鹿北町・鹿中央町・鹿本町・旧山鹿市の1市4町が合併し、今の山鹿市が成立した。1市4町が合併したにもかかわらず、現在の山鹿市では少子高齢化が進行している。そのため、今回はこの少子高齢化を改善しつつ、このような少子高齢化でも住みやすい山鹿市の魅力を発信していきたい。山鹿の魅力を発信することで山鹿市の人口を増やし少子高齢化を防ぐことができるのではないかな。

3 仮説(課題解決のための提案)

山鹿にはたくさんの魅力がある。例えば、山鹿市では知らない人はいないほど有名な八千代座や山鹿温泉、また山鹿のいいところ調査での回答では平山温泉や矢谷渓谷、道の駅が多くあった。これらの観光スポットを最大限活かして山鹿市のPRをすると、少なくとも「山鹿市はこういうところなのか」と知ってもらうことはできるだろう。



(引用: 左 山鹿探訪なび 右 九州旅ネット)

そのために、いろんな年齢層が使われているインスタグラムやツイッターなどのSNSの利用、実際に来てみないとわからない体験型を増やす、小さい子供や高齢者の方が過ごせるような年齢ごとに合うような場所を作る。しかし、それにも予算が関係する。そこで、山鹿市の魅力の一つである自然を活用する。そうすることで、そこまで多額の金額はかからず山鹿市の魅力を発信できる。また、自然や外で活動することによって健康にもいいと感じる。更に、実際現在の山鹿市の高齢者の方々は家に閉じこもりがちの方が多くいる。そんな方のために外でも活動する機会を設けたい。

4 研究手法

山鹿市の中でも鹿北・菊鹿・鹿本・鹿央のそれぞれに課題がある。
 ・鹿北地域コミュニティの維持ができていない⇒人口減少(特に高齢化が進んでいる)→小さな町を合併して維持していく
 ・菊鹿 棚田の消失危機⇒人口減少で棚田整備の人がいない



(引用: 左 山鹿探訪なび 右 菊町観光ガイド)

(菊鹿は棚田が綺麗ということでもとても有名である。)→このままだと荒れ果てて、なくなるのでは？

・鹿本 やまがメイトの利用促進⇒建物が多い鹿本。閉じこもりがちの高齢者などをこのやまがメイトを利用して交流をさせる。
 ※やまがメイト…市からのお知らせ(イベントや災害情報)が届く。町内放送だと聞こえない範囲があったりなどするので、スマホや携帯電話で身近に聞ける事ができる。



(引用: 山鹿市ホームページ)

・鹿央 買い物弱者支援⇒鹿央はこの4つでも特に買い物をする場所がないとの声を聞いた。また、鹿央も高齢化が進んでいるため車の移動が難しい。

5 研究内容・考察

実際に過去の山鹿市は少子高齢化対策を行ってきた。

1. オムツ購入費助成(月額3000円の助成)
2. ランドセル無償贈呈



(引用: Cerezo OSAKA)

3. 医療費無償化

これらの取り組みは山鹿市民に喜びの声を与えた。一般のランドセルは平均約5万円。山鹿市ではそんなランドセルを新一年生へ無償で贈呈することで親御さんから「とても助かる」との声を頂いた。更に、医療費無償化については、医療費が無償なのは自治体ごとに対象年齢が違う。山鹿市は対象年齢が18歳までだという。私が住んでいる菊池市は医療費無償化は15歳までなので18歳まで無償化なのはいいことだと思う。これからも続けていくといいと思う。

【考察】山鹿の魅力を発信する目的で、山鹿市の少子高齢化について調査した

結果、山鹿市ならではの取り組みや、各地域の目標や課題が見つかった。また、好評な取り組みは子育て支援事業であることも分かった。この結果から、山鹿市の魅力は子育てがしやすい環境が整っていることだと考えた。また、山鹿市は少子高齢化が進んでいて、たくさんの課題や目標があることがわかった。山鹿を発展させ、その課題や目標を解決・達成させるためには、山鹿の魅力を発信し、認知度を上げていくことが大切だ。

6 結論ならびに今後の展望

今回の調査を通して、山鹿市は少子高齢化や地域課題が進行しているという事がわかった。しかし、山鹿市には課題だけではなくたくさんの魅力や観光スポットがあるということも知ったので、これからは課題を改善しながら魅力を発信していきたい。

7 参考文献

- 山鹿市役所(2022)。「市の計画・方針」。<https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/toppage/000000000000/APM03000.html> 2022年8月10日
- 山鹿市役所(2022)。「山鹿市長期人口ビジョン(令和2年3月改訂)(PDF文書)(PDF:648.9キロバイト)」。
<https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1585136949914/files/yamagajinkouvision02.pdf> 2022年8月10日
- マイ広報紙(2022)。「令和2年国勢調査の結果 山鹿市の人口は49,025人でした」。
<https://cse.google.co.jp/cse?cx=014993973094798657751%3Apmmlstk84s&ie=UTF-8&q=%E5%B1%B1%E9%B9%BF%E5%B8%82> 2022年8月4日
- GD Freak!(2022)。「グラフで見る!山鹿市(ヤマガシ 熊本県)の世帯数とその構成」。<https://jp.gdfreak.com/public/detail/jp010050000001043208/13> 2022年8月7日
- 山鹿訪問ナビ(2022)。「てくてく山鹿: 八千代座/夢小蔵-山鹿市の観光スポット[歴史・文化]」。<https://yamaga-tanbou.jp/spot/1182/> 2022年8月11日
- 九州旅ネット(2022)。「観光スポット: 八千代座・夢小蔵」。<https://www.welcomekyushu.jp/event/?mode=detail&id=9999902007353&isSpot=1&isEvent=2022年8月11日>
- 山鹿訪問ナビ(2022)。「てくてく山鹿: 番所の棚田-山鹿市の観光スポット[景色・自然]」。<https://yamaga-tanbou.jp/spot/1222/> 2022年8月13日
- くまもと山鹿市 菊鹿町観光ガイド(2022)。「名所&おすすめ観光スポット」。<https://yamaga-kikuka.com/sightseeing/bansho-tanada/> 2022年8月13日
- 山鹿市役所(2022)。「山鹿メイト」。<http://yamaga-mate.jp/> 2022年8月13日
- Cerezo OSAKA(2020)。「新一年生へのランドセルカバー贈呈のお知らせ」。<https://www.cerezo.jp/news/2020-06-29-15-00/> 2022年8月15日